

ところで、昭和二十五年頃より漁船の数は増え、一般的の漁業經營は困難となるにつれ此等漁礁の開発が再び注目をあびるようになつて来た。昭和二十七年銀山丸の購入によりこれら漁礁の開発を当面の問題とし、魚群探知機等を装備し、昭和二十八年より此等周辺水域の基礎調査にとりかかり、浮魚、底魚両方面より検討を加えて来た。底魚方面にのみついてみると、先づ二〇〇米以深の海底の魚類を漁獲する手段として最も普及している

連絡二五二

日本漁業水產試驗研究

第 5 5 号

新潟市万代島
日本海区水産研究所

印 刷
株式会社早川商店
昭和30年8月1日発行

佐渡北方の新漁場開発に当つて

丹羽正

最近角び注目をあびて来た佐渡北方に散在する瓢箪瀬と向瀬は、佐渡稻穀の漁民が大正六年の始め頃から一部を利用していたらしく、其の当時は場所、形状等は明らかでなかつた。併かし抜入正六年播磨の漁民の要望で、新潟県水産試験場が調査に着手し、其の後數十回に渡り、此等の漁礁の形状、魚族の棲息状況、海の状況などについて調査が進められた。併かし抜入

て いる。浅い處には、ハチメ類、二〇〇～二五〇米附近にはソウハチ、ホツケ群が多く、ハツメ・スケソウタラ・マタラ・アカガレイ・ウロコメガレイ・エビ類・カニ類は、何れも三〇〇～四〇〇米の深さで漁獲され資源的にも多いと思われる。またこれらの魚類は時期により、棲

成功していろいろが、市場価値のある重要な水族は深度四五メートルまでに分布棲息し、それより深所にはほとんど姿を見せていない。本年七月より開始した本格的漁業試験結果の成績をみると、七月六日より七月十五日に至る間、三航海を実施し、この間三十二回に渡つて投網した新しい漁場にも拘らず、根掛りは三回に過ぎず、またこの根掛りめたいしたものなく、網の破損は皆無と云う状況である。漁獲高方面から見ると、総漁獲高三,400メートル、最高一網漁獲高は五二貫、平均一網漁獲高二二八貫という成績を挙げ、従来の漁場に比較して、二一三倍以上の成績を挙げている。主な魚種は現在ハツメで、時期によつてタラ類、カニ類、ホツケ、ハタハタ等に期待が

底曳網では六〇メートル附近まで網を入れることに成功しているが、市場価値のある重要水族は深度四五メートルまでに分布棲息し、それより深所にはほとんど姿を見せていない。

○第五回研究談話会

のろげんげは
明内大好調
はるかに伊東克服

主なる項目——第五五号——

議案託された。たゞ今ま
官の挨拶があり、統いて各水研究所長より長
官の挨拶があり、統いて各水研究所長より長

末日付にて退職され
平治氏が場長に就任され

もてるのではないかと考えられる。漁撈技術からすると、先づオ一に網を自己の思う水深に投網する技術を獲得すべきである。これがためには、海底の傾斜や起伏状況を熟知しないと、決して良い成績を挙げることは出来ない。次に底魚類の棲息範囲は非常に限定されているから、この場所を見出し、投網しなければならない。陸上に適当な目標を求める事の出来ないこの海区では、海底の形状から船の位置を見出すのが、一番容易である。此の点から精密な海底図が必要となつてくる。更に一二の問題と関連して、投網方法は地方によつて異なるが、この漁礁においては、従来のかけ廻し方法を踏襲するよりも、網の築かる場所に気をつけて行けばよい。その四の点として、泥深くかつ水深が割合に深いから、此等の点を考慮し漁具は皆々軽い物を使用すべきだと考えられる。

以上気付いた点を二、三列挙したが、要するに魚群探知機を使用し、自己の思う場所に投網出来るよう海底の形状を熟知する事が根本問題と考えられる。吾々が着手している新漁礁は從来の調査資料では、まだ不充分で、今のところ此の漁礁を価値づける事は出来ないが、沿岸の他漁場と同じ様に利用されるよう調査と指導に意をそいで行かねばならぬと考えている。たゞ漁船の装備の貧弱な航海技術の不充分な陸地の山を目標に漁業する人々の進出はまだまだ将来のことと考えられるとは云え、日夜脱皮じつゝある漁業技術はわづか五〇一〇。漁前後の此等漁礁を何時まで放置しておくとは考えられない。現に吾々と行動を失にする二隻の漁船は良い成績

底魚未利用魚種の「のろけんけ」
は利用出来ないものか

深海底曳で多くとらわれている魚種の中では、一握には余りかそり見られない「のろげんげ」が意外にも大量に漁獲されている。兵庫水試が昨年以来、山陰、経ヶ岬等の沖合で底曳試験を行つた結果では、この魚の漁獲物中に占める割合が大変大きく、時には水揚げの際網を断ち切らねばならないことがしばしばあつたと聞いている。新潟県沖合で、日本水研が調査したうちにも前述のような結果がやはりしばしば起つた。このようく深海で大量にとれるこの魚が水揚げされて利用されることなしに海中に放棄して了う現状である。

「のろげんげ」は体表が寒天様物質でおおわれ、大変柔軟で水分が多く、甲板に揚げてもヌルヌルと始末が悪く、漁業者もこれを運搬することは他魚種に悪影響を与えるので余り好まない。しかし一見して、久口テスクなどの魚山・寒天様のものを除き、一握後乾し

を挙げつゝあり、漁業技術の進歩によりこれ等海域の見通しは明るくなつてゐる。
最後に海の探究、海洋資源の開発に従事している吾々は、素朴な觀察から早急な結論をいそぐことなく、ぢづくり腰をおちつけ、此等の事業に立向つて行かねば漁業者の要求にそいえぬ事を痛切に感じてゐる。

て捨てがない。この魚は北方系の魚で、その分布は福井県から富山県に着しく多く、山陰地方の沖合に広く分布し、朝鮮東岸、北海道日本海側等日本海一円に分布しているが、本邦太平洋岸には見られないことがわかつて、いわば日本海特産の魚である。

漁獲水深は本邦日本海沿岸、北海道沿岸とも三〇〇一四〇〇米までの水域で多くとられ、新潟県沖合では三〇〇米以浅では余り見られないが、三〇〇米以深に網が投網されると場所によつて、前述したように網の切斷を必要とするほど大量にとれることがしばしばある。漁業者はこの魚を大変嫌つてわざく、その棲息場所を避けて操業するので、日本海でいか程とれるかも推定できない。しかし、これが利用されて経済的にも価値あるものとなると大変な量が水揚げされるであろう。

三十年七月新潟県沖合でとられたものについて調べてみると、その多くが端脚類を食べているが、口器の構造からでは小型魚類も食するのではないかと思われる。

卵巣は腹腔内に一对でなく、單一で他のげんげ科、しもふりがじ、くろげんげでもやはり同一のことが認められた。わづか二尾、三年七月二七六尾、二六五尾)のみの測定ではあるが、一尾の抱卵数は平均一八〇粒内外で意外に少く、その上卵径が平均五ミリにも達し大変大きい。へ色は淡黄緑色)。このよう卵数が少いにもかかわらず、莫大な棲息量が予見されることは興味深い。

いづれにしても今後この種の魚類をなんとかして焼いて食用に供すと仲々淡泊な风味があつて捨てがない。

はわづか五〇一～〇〇埋前後の此等漁港を本までも放置しておくとは考えられない。現に吾々と行動を失にする二隻の漁船は良い成績

が利用するよう早急に調査や研究を進めることが要請される。(資源部 大内 明)

(資源部 大内 明)

佐渡沖の新漁場操業好調

国庫助成による新漁場開発事業は、去る七

(新潟県新潟市夷網漁業組合)

日より出航した新潟県新潟市夷網漁業組合の漁業丸(三六・四五屯)、オハ宝塚丸(三三・田九屯)は、中旬までに四航海を了つたが、その成績は左の通りで、多大の期待がよせられて

日本海の夏枯現象は

徐々に克服されつつある

航 海 船 名	出 港	入 港	
漁業丸	七、六時	七、九時	げんざ
オハ宝塚丸	七、九時	七、九時	すけどう
漁業丸	七、九時	七、九時	かれ類
オハ宝塚丸	七、九時	七、九時	かに
漁業丸	七、九時	七、九時	さめ
オハ宝塚丸	七、九時	七、九時	ほつけ
漁業丸	七、九時	七、九時	えび
オハ宝塚丸	七、九時	七、九時	その他

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 水 揚	。	。	
ノ ヤ ハ 宝 塚 丸	。	。	
船 名	。	。	
出 港	。	。	
入 港	。	。	

計 航 海 船 名	出 港	入 港	
総 			

を心からしたもので今後の発展が特に期待されるところである。

の減少と中毒性颗粒の出現が見られ、その後白血球数等は正常に回復しつつあるので明ら

か魚群によるものと云ふことは、例年より四五度高くして異常に高温で例年より四五度高く

魚業以南の海域では左程でないが、中毒患者の発生も新潟以北に多く、他の海域の漁獲物では比較的少い。(1) イカのみでなく、すべての魚介に依つて中毒が発生している。(2) 海岸地帯の比較的鮮度良好と考えられる

(3) 六月二十日以降の気温が高く、湿度も高い、即ち胃液の分泌、消化力の低下が見られる。(4) 寒冷前線の接近停滯が頻繁に見られたが、(5) 漁獲後の中問題

この様な気象状態の時は体内にヒスタミンが地帯で発生し、然も煮ても焼いても発生して、いる。即ち鮮度に關係がないようと思われる。増加し、アレルギー性症状の誘発が見られる。(6) 鮮度が低下しやすい

日本海側の各府県では、戦後沿岸沖合への出漁が不可能になりそのうえ、李ラインによつて漁場が縮小されると共に減船整理の問題などもあつて、裁船底曳網漁業者は如何にして生活を求めるかと云う事に、茲数年来呻吟している。そこで当場では昨年より但馬沖合の水深三〇メートル至四〇メートルの深海漁場で、裁船底曳網漁業試験を実施して、漁場の開拓を企図しているところである。

現在この漁業試験で漁獲されるものの中でも、市場価値のあるものは、アカガレイ及びホツコアカエビで、これらに就いては今後の研究によつて、漁獲量並びに時期的な移動状況を調査すると共にその総合的な資源状態を明確にして、漁業經營が充分成立するものならば、資源維持を考慮するべき事は当然である。

次に此の漁業で最も重要な問題として、この地方の今後の深海漁業の鍵をにぎつて、現用試験にあると云う事も出来る。当場に於ては先般より研究に着手してはいるが、こうしたものに、ノロゲンゲと云う漁獲物がある。現在於ては市場価値の極めて少いもので、水命が八十五%もあり、此の漁獲物が根柢的に揚げられるところ、其後の商品化に対する方針が、

魚 探

(5)

治 幸 上 井

ては、もう殆んど市場価値のないものとなり、漁業者にとつては海水の運搬と同様に考えられるものである。然しこのノロゲンゲは、夜更ノロゲンゲと称する稚鰐としており、多く入り過ぎる為め漁網を引揚る事が極めて困難で、漁獲物をそのまま放棄した事さえ試験中屡々経験している。

我々の祖先はクレゲやナマコ迄食用に供する事を研究したと共に、怪物の夕ゴまで嗜好している民族であるから、ノロゲンゲの直接の利用も考えられるが、例え之がそのまま食用に供されないとしても、我々は失望する事なく新らしい視野に立つて、画期的な利用を研究する事が譲せられた當面の問題であると思う。

此の観点から論すると、日本海西部海区の深海漁業開拓については、ノロゲンゲなどの漁獲物の高度の利害を明確にして、漁業經營が充分成立するものならば、資源維持を考慮する上で、この種漁業の奨励が行はれるべき事は当然である。

用試験にあると云う事も出来る。当場に於ては先般より研究に着手してはいるが、こうしたものに、ノロゲンゲと云う漁獲物がある。現在於ては市場価値の極めて少いもので、水命が八十五%もあり、此の漁獲物が根柢的に揚げられるところ、其後の商品化に対する方針が、

あるが、さればと云つて特に体力の消耗しや

すい夏期に安価な蛋白食糧を

とらないうわけで、これが

いわゆる「資源開拓」の第一歩となる

ことである。

（兵庫県水産試験場長）

1955.VII

はやかない。そこで鮮度の良い魚を少量宛、煮るか焼くかして、美味しく食慾を増進させられる。食中毒を恐れて蛋白質をどうないで却つて体力を弱めることは角を撓めて牛を殺すの類であり、瘤を転じて福とする為にはこれを機会に漁業者や取扱業者に鮮度保持の重要性や衛生的観念と蛋白食糧の重要性を認識させるべく努力することであろう。

(利用部長 野口栄三郎)

太平洋イワシ会議延期さる

既報のとおり本年十月東京で開かれるIPFC(インド太平洋漁業会議)の時に太平洋イワシ資源問題を談する会議を開催したい旨米国南太平洋海区水産研究所長ジョン・マーリ博士から我国研究者によびかけがあつたが最近同博士より「各方面の多大なる賛成意見にも不拘、出席者の旅費及び準備や会期の都合により同計画は一応延期し、明年改めて計画したい」旨の通告があつた。

(水研)

蒼鷹丸による

日本海海洋調査予定

日本海沖合の海洋調査は既来計画したが、種々の都合で実施にいたらなかつたが、今年度は対馬暖流調査の一環として、左の日程によつて、新造船蒼鷹丸を使用して実施することになつた。

(水研)

月 日	出 入 港 名	漁 数	観測点数	所要時間(航行+観測)
8月10日	釜 沢 沢	326'	魚 探 点 5	3 時
8月12日	カ カ 川 川	200'	魚 探 点 5	3 時
8月13日	加 茂 (酒田)	70'	魚 探 点 5	2 時
8月14日	加 茂 (酒田)	70'	魚 探 点 5	2 時
8月15日	新 潤 潤	50'	魚 探 点 5	2 時
8月16日	新 潤 潤	962'	魚 探 点 5	2 時
8月18日	新 潤 潤 ~ 魚 島	25 点		1 時
8月19日	新 潤 潤 ~ 新 潤	25 点		1 時
8月23日	新 潤 潤 ~ 新 潤	23 点		1 時
8月26日	新 潤 E132° 観測			1 時
9月 5日	東京へ直航			1 時
計		3,114'	53 点	3 時

第五十一回研究談話会開催

七月二十八日 日水研講堂においてオ五十一年研究談話会が開催された。

なお演題及び発表者は次の通りであつた。

一、当該魚イワシの漁獲率について

二、いか中毒について

三、さんまの手づかみ漁法について

(岡地伊佐雄(資源部))

右の談話会に横須賀市立博物館長羽根田博士の「发光魚類について」の講演があつた。

あ
と
が
キ

近年にない暑さ、おかげで有史以来の大豊作の由、しかし海は夏枯で、そのうえイカ中毒が北日本海方面で頻発して、関係者の方々にはお困りでしたが、新漁場の開拓が段々有望になつて、今夏に於ける一大収穫でした。予定以上の玉穫を賜わつて増員の始末、今後共一そろの御支援を願ひます。(係)